

夏の終わりに、9月から12月までの予習を。予習は力。予習力を身に着けよう

開倫塾

塾長 林明夫

1. (1) 開倫塾の塾生の皆様の大半は、高校を卒業後、大学、短期大学、専門学校、専修学校など、所謂（いわゆる）、「高等教育機関」に進学し、高校卒業後も、更に勉強を続けます。
(2) 大学等の高等教育機関で学ぶに当たり、最も大切なことは何か。
 - ①自分は、高等教育機関で学ぶ学生であることを「自覚」し、
 - ②「学生の本分」とは何かを自分の頭で考え、
 - ③やるべきこと、やらないことを自分の力で考え、
 - ④「高い志」を持ち、「自律的に活動」することに尽きます。
 - ⑤高校や大学等を卒業後、社会に出て、仕事や社会的活動をする場合もまったく同様です。(3) 「学生の本分」とは、自分で学ぶことを決定した「学問領域」を、「自分の力」で「主体的に学ぶ」ことです。
2. (1) 大学においてこそ「主体的に学ぶ力」が求められます。
(2) 開倫塾では、「学力とは何か」、つまり、「学力」の意味を「主体的に学ぶ力」であると「定義」して久しいですが、これは、塾生である間に、「主体的に学ぶ力」を少しずつでも身に着け、高校卒業後、塾生の大半が進学をする大学等の高等教育機関で教育・研究に備えて頂きたいためです。
(3) 高校や大学等を卒業後、社会に出て、仕事や社会的活動をする場合もまったく同様です。
社会で求められるのは、
 - ①「主体的に学ぶ力」、
 - ②「高い志」を持ち、
 - ③「自律的に活動する能力」です。
3. (1) 「自分から進んで学ぶ力」「主体的に学ぶ力」として一番重要なことは、これから学ぶことを、自分の力で予(あらかじめ)め学ぶこと、つまり、「予習」をすることです。
(2) 「予習は能力」「予習をすることは能力」です。
(3) 開倫塾に在籍し、塾生である間に、「予習力」を身に着け、大学等の高等教育機関に進学する。社会に出て、仕事や社会的活動をすることです。

4. (1) 予習の第一歩は、今であれば、夏の終わりに「9月から12月までに学ぶ範囲について、教科書や教材、問題集などを、ザーとでもよいから、1回、予め学んでおくこと」「このようなことを、9月から12月までに学ぶのだ」と、予め頭に入れておくことです。
- (2) そして、興味、関心がある教科や内容については、「何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨む」まで、徹底的に予習をすることです。
- (3) 予習を通じて、学ぶべき内容がよく「理解」できたら、「定着のための3大練習」、つまり、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を繰り返し、「スミからスミまで」、「すべて覚えてしまう」ことです。
5. (1) では、授業では一体何をするのか、授業の目的とは何か。
- (2) ①よくわからないところを、先生の講義や、授業の参加者との議論によって、理解する。
②予習で理解した内容の理解を、更に深める。
③問題点、何が問題なのかを、より明確にする。
- (3) ①今までのように、先生から、授業で初めてお話を聞いて、一つ一つの内容をよく理解するという授業パターンではなく、逆に、まずは予習をする。
②予習をして、よくわかったことは、自分の力で、定着まで行う。予習をして、よくわからないことをはっきりさせ授業に臨む。
③授業では、よくわからないところを、先生のお話や、授業参加者との議論ややり取りで、よく理解できるまでにする。
④よく理解できているところは、理解を深める。
⑤授業では、何がわからないか、何が問題なのかを、さらに明確にする。
6. (1) 以上が、大学等の高等教育機関に進学をしたり、社会に出て仕事や社会的活動をする際に求められる「予習の能力」「予習力」です。
- (2) このような意味での「予習力」で最も重要なのは、「読解力」、つまり、テキスト、書き記されている文字や文章、数字や記号、情報を、正確に、分析的、論理的に「読み解く力」です。
- (3) ①最先端の、専門領域の教育や研究を推し進めている大学であればあるほど、すべての教科で、テキストの分量は多くなるのが普通です。
②ですから、スピードを上げて、授業時間までに、テキストを読み解くことが求められます。
③また、大学等の第二外国語（スペイン語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語、ドイツ語、中国語など）の授業では、英語の学習にたとえば、中学1年レベルから高校3年レベルまでの文法や語句、表現を、大学入学直後の1～2年間に学びます。どの言語も必修単語は3000語はあります。このような意味で、大学の第二外国語は、復習はもちろんですが、予習は不可欠です。
④大学での第二外国語では、中学校や高校の国語や英語で用いた「文法用語」がたくさん出てきますので、国語や英語の文法もしっかりと学んでおくことです。

7. (1) 12 月が終わると、あっという間に、1 月に入り、上級学校への「入学試験」や、1 年間の総まとめの「学年末試験」が待っています。
- (2) ①入試で、第一希望校に合格を果たすためには、どうしたらよいか。12 月から受験勉強をスタート、猛ダッシュをかけても、間に合わない場合が大半です。
- ② 1 学年の評価が与えられる 2 月の「学年末試験」でよい結果を出すには、1 月に入ってから勉強をスタートしたのでは、これも間に合いません。
- ③夏の終わりの、今頃から、9 月から 12 月までの予習をしっかりと済ませ、入試や学年末試験に臨んで、初めて、よい結果を期待できます。
8. (1) 予習をするときに一番必要なものは、「辞書」です。
- ①予習をしていて、意味のわからないことばがあったら「気持ちが悪い」と考え、ことばの意味がわからないままに放置しないで、必ず、辞書を用いて、ことばの意味を調べましょう。
- ②辞書で調べたことばの意味は、「意味調べノート」や「カード」に、必ず、書き写しましょう。
- ③書き写した「意味調べノート」や「カード」は、絶えず、1 ページ目、1 枚目から、読み直し、すべて、正確に、覚えてしましましょう。
- (2) ①1 日に 10 のことばを、辞書を用いて、意味調べを行きましょう。
- ②1 日 10 語、1 か月で 300 語、1 年で 3650 語、3 年で 1 万語を目指しましょう。
- (3) ①「ことばは力」「語彙力、語彙量は力」です。身に着けていることばの数の多さは、読解力の前提です。
- ②読んでわからないことは、耳で聞いてもわかりにくいことが多いので、
- ③語彙力、読解力は、聞き取る力の前提ともなります。
9. (1) 英語や、英語以外の第二外国語を学ぶ時にも、予習、とりわけ、辞書を用いた意味調べ、調べたことをすべて記録し、それをすべて身に着ける能力は欠かせません。
- (2) 1 日 10 語、1 年で 3650 語、3 年で 1 万語は、すべての言語学習にも当てはまる基本動作と確信いたします。
- (3) 「予習は力」です。開倫塾の塾生である間に、「予習力」を身に着けることをお勧めいたします。

2017 年 8 月 25 日 (金) 8 時 01 分